
荒川三山～赤石岳：赤石のお花畑を訪ねて

齊藤整紀

- 平成 28 年 7 月 21 日(木)～25 日(月)
- メンバー 齊藤整紀(CL)・村山隆(友人)
- コース

21 日 竹橋 22:45(毎日旅行バス)⇒5:30 畑薙 7:30 (バス) ⇒8:20 榎島

22 日 榎島 8:35→10:50 小石下→12:40 清水平→14:00 見晴台→16:30 千枚小屋(泊)

23 日 千枚小屋 6:00→7:00 千枚岳→8:40 丸山岳→9:30 東岳→11:20 中岳→11:40 前岳→12:30 荒川小屋(泊)

24 日 荒川小屋 5:00→5:50 大聖寺平→7:10 小赤石岳→8:00 赤石岳(避難小屋休憩) 9:00→11:40 富士見→12:30 赤石小屋(泊)

25 日 赤石小屋 5:30→7:30 樺段→9:07 榎島(入浴):13:00(バス)⇒畑薙 14:15(バス)⇒21:00 新宿

【はじめに】

今夏最初は、BSの「赤石岳」の荒川前岳お花畑を見ての企画。当初、小屋2泊で計画したが、7月の2回のトレ山行や年齢等から見て小屋3泊のゆとりの計画とした。

7月22日(金)曇り

竹橋を出たバスは中央道、圏央道まで雨に打たれていたが、東名に入ってから上がった。一般道での車の激しい揺れが収まり、畑薙ダムに到着。登山届を提出、2時間待

って7時半始発の送迎バスに乗り込み、1時間弱で榎島に到着。榎島ロッジ泊のツアーも何組か加わって、基地は賑やか。大倉喜八郎の記念碑を横目に登り始め、赤石小屋方面と早々に分かれ、川沿いに進む。30分程で尾根に取付いた後は、ひたすら登る。

急登は少ないが、樹林帯は蒸し暑い。ブナ主体からシラビソへ林相が変わって、湧水の豊かな清水平辺りで疲労感。友人は「眠い」・・・、私も足攣りと左足の浮腫みに悩まされる。ようやく千枚小屋が近づき、お花畑が現れるも、時期が悪いのか草丈の高い黄色のマルバダケブキが独占し、その他の花は、それに隠され、良く見ないと分からない状態。千枚小屋は焼失後建直し、新しいが、我々の別館は母屋から遠く、階段、坂道が厳しい。案の定、夕食時から土砂降りの雨で、食事、トイレに苦労した。

7月23日(土)快晴

昨夜の雨が、3時トイレ時にも残り、うんざり。物憂い目覚めが「富士山！」の歓声で一変。5時前、小屋前に朝日を受け富士のシルエットが！素早く食事を済ませ、千枚岳へ。1時間弱で眼下にクリアに澄み渡る大展望が広がる。皆、カメラに夢中！

次の丸山からは3000mの天空散歩。ガウ場の東岳3141mは6位で今回一番高く展望は良いが、所々に雲が浮いて架かる山も。東岳を下りて中岳とのコルで袖に「みろく山の会」のシャツを着た男性二人が必

死で交信している。パーティに遭難者が出て、ヘリを要請した後、コルから避難小屋へ遭難者を移したようだ。我々は「移動の連絡が出来ていないので二人はコルに残り、引き続き交信に努める。ヘリが避難小屋に近づいたら合図する様、星リーダーに伝えて下さい。」との伝令を受けた。(メモは無し。)我々はペースアップをして、避難小屋へ向い星リーダーに伝えた。(しかしお礼・労いの言葉はなし。)程なく小屋脇にヘリが到着。東岳山頂直下で岩を掴み損ね、上腕部と大腿部を打ったとリーダーが話した怪我人は自力でヘリに乗込んだ。

続いての天空散歩の荒川中岳、前岳の山頂は大混雑で記念写真も儘ならない。やむなく、次の目当ての前岳のお花畑へ急いだ。大きな雪渓跡の斜面にお花畑が広がる。そこを縦断！ 囲いに入ると核心部の素晴らしいお花畑が広がる。平原に広がるトムラウシのお花畑と、大斜面へ広がるここは双壁！ この時期、ウキウキ、ワキワキが目立つ。

昼過ぎ荒川小屋に着き、余裕のお泊り。因みに件の星リーダーはパーティの所在報告のため有人の荒川小屋にきた。ここもトイレ、水場が遠い。特に水場は急斜面。

7月24日(土) 快晴

放射冷却で寒い朝、富士の朝焼けは撮り放題。4時朝食、5時出発。小赤石岳の登りは少し息が切れる。後続の大パーティに抜かれまいと頑張っで尾根に出ると、難を連れた雷鳥が青空を背に岩に立つ。珍しい光景をゲット！ 小赤石岳は大展望である。塩見岳は鉄兜に見え、槍・穂高、御嶽、白山も雲に浮かぶ。赤石岳山頂は後続が押し寄せ、山頂は支配され、避難小屋へ避難。

赤石沢方面へと目を落すと、これから下るコースにヘリがホバーリング中。8人パーティの女性が足を捻挫して、ヘリの助けを要請したとか。展望を楽しんだ後、避難小屋スタッフのハーモニカ演奏会の輪に加わり、1時間程赤石岳山頂で遊んだ。

赤石小屋は団体が多く、布団1枚に2人で、きつい。食堂も一杯、通路で寝る人も。

7月25日(月) 晴れ

寝苦しく、早めに起床。小屋前と小屋横の高台には、朝日に映える赤石岳・小赤石岳の撮影に多数が参集し楽しんだ。日に当たる場所はチャート岩が一層、赤く輝く。

5時の朝食で5時半出発。歩き易い急坂の連続を凌ぎ、榎島へは9時過ぎに到着。まずはお風呂。団体に抜かれないように頑張ったことが効奏、榎島ロッジでゆったりと汗を流すことが出来た。

すっきりして外へ出て、13時発のバスを待つ間、ビールでの飲食の他、白旗史朗の写真館や大倉氏所縁の1100m余りの榎島の高原散策を楽しんだ。バスは、畑薙ダムを出発して間もなく、白樺荘に立寄り、1時間程、入浴や食事の時間を取った。入浴漏れの場合は助かる。渋滞でバスが新宿に着いたのは21時で。葛西で遅い反省会。

二人で事前トレを行い、時間に余裕のある山行計画のお蔭で、安全で快適。今後も1日のコースタイムが7時間を目安とする。

当初見たいと思っていたもの、①前岳のお花畑、②南ア連峰の展望、特に塩見岳、③赤石の雷鳥、④富士山のご来光、これらの全てが、ハイレベルで実現した。特に悪天候が付き物の雷鳥が青空を背に岩に立つ雄姿は珍しく、神々しく、感動した。